



雪の金閣寺 (撮影 井坂公一会員)

会長 福田 昭一 幹事 高野 竜也

- 例会場 L'AUBE kasumigaura
TEL.029-875-8888
- 例会日時 火曜日 12:30~13:30
- 事務局 土浦市真鍋1-2-6 金塚ビル3F
TEL 029-823-4524 FAX 029-869-9006
- ホームページ <http://tsuchiura-south-rc.com>
- Eメール t_minami@lapis.plala.or.jp

2021~2022年度
国際ロータリーテーマ



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

2021年12月7日 10号
2021年11月16日 第3例会報告



地区 HP



地区行事予定

- | | | | |
|----------------------------|--------|---------------|-------------------|
| 1. 点 鐘 | 福田昭一会長 | 6. 新会員卓話 | |
| 2. 国歌及びロータリーソング斉唱 (黙唱) | | | 香取秀総会員, 鈴木恵一会員 |
| | 奉仕の理想 | 7. 出席状況報告 | 出席委員会 |
| 3. 幹事報告 | 高野竜也幹事 | 8. 点 鐘 (点鐘のみ) | 福田昭一会長 |
| 4. 委員会報告 | | | |
| 5. ニコニコボックスの発表 井坂雄祐副 S A A | | | (司会進行 説田賢哉 S A A) |

本日のプログラム

年次総会に引き続き、高野竜也幹事より新井ガバナー公式訪問事前説明がございます。

次週のプログラム

12月14日(火)の例会は、新井和雄ガバナー公式訪問日です。全員参加でお迎え致しましょう。

出席状況

会員数	出席数	出席免除	出席率	全員出席卓	3名以上欠席卓	メイクアップ	出席訂正率
名	名	名	%	卓	卓	名	%
85	62	4	74.70	3・12・15	14	6	81.93

【委員会報告】

ローターアクト委員会

片岡 哲 委員長

11月29日(月)に3クラブ合同の代表公式訪問を行います。場所はつくばカピオにて、時間は19:00～20:30になりますので、皆様振るってのご参加を宜しくお願い致します。

ゴルフ同好会

中山 元章 ゴルフ同好会幹事

12月1日(水)に千代田カントリークラブに於いて2021年最後のゴルフ同好会コンペを行います。パーティ会場はよし町にて行います。皆様の参加よろしくお願い致します。

ロータリー財団委員会

稲本 修一 委員長

11月はロータリー財団月間でございます。

皆様のお手元にあります、寄付金申込書にご記入をお願い致します。本日で締め切りとなります。

家庭集会

塚崎 雅之 職業奉仕委員長

本日18:00よりうまい家さんのほうで第2回目の家庭集会を行います。皆様のご参加願います。

【新会員卓話】

香取 秀 総 会 員



今年6月に縁あって入会させていただきました香取秀総と申します。本日は新入会員の卓話をとは言うものの、どのようなお話をしたら良いかと悩んでおりましたが、なかなかまとまりが付きませんでしたので、私の過去を掘り下げて、今ある私といつどうつながったかについていくつかお話をしてみたいと思います。題して、香取秀総の「縁でつながるその先へ」始まり！始まり～

さて、皆さんはある日の出来事が、実は以前に起きていた出来事につながっていると感じたことはありませんか？私は、良いことも悪いこともあります、時々そのような事を考えることがあります。

では、私の生い立ちとのつながりについてお話したいと思います。

私、香取秀総は、香取秀統・静江の長男として昭和44年4月4日に土浦で生まれました。4が4つ並んだゾロ目という事もあり、昔から誕生日は多くの方に覚えられておりました。しかし、小学生の頃の私は、女の子をお祝いする3月3日のひな祭りとお祝いする5月5日の端午の節句の間ということで、悩んだ時期もありました。しかし「おててのしわとしわをあわせて しあわせ な～む～」のCMを見て、4が4つあわさっている、だから「しあわせ」

の日なんだと思えるようになり、そんな悩みは徐々に解消されていきました。今年はジェンダーという言葉が多く聞かれるようになっております。時代が私の誕生日に追いついてきたのかとも思っております。

父、秀統は香取栄と文の次男として生まれました。長男宅、つまり本家は神立駅東口の目の前にあります。さかのぼると、私の曾祖父の代に旧出島村から神立に移り住んだようです。さらに古くは千葉県の香取市の香取神社に勤めていたが、その後移り住んできたとの話もあります。因みに、平安時代から中世時代、香取神宮は鹿島神宮と共に霞ヶ浦を含む香取の海一帯を管理していた時期がありました。

そんな私が、横山恭教会員が土浦青年会議所第50代理事長を務めたとき、霞ヶ浦に賑わいをという目的で作られた委員会「霞ヶ浦共育実践委員会」の委員長を務め、レイクフロント土浦構想のもと、1年間霞ヶ浦に関わる事業を行ったことは何かのご縁だったのではないかと思います。

そして、これって私の前世？と思える写真を旅先で見つけました。20代・30代とハワイ旅行にはまり、よく行っておりました。そんなある年、マウイ島でドライブしているときにとある神社を見つけました。何気なく見ているとそこには写真があり、え〜！と思った写真がありました。それがこれです。どうですか？

さて、皆さんの記憶の中で、最も古い記憶は何歳でどのような記憶でしょうか？

私は2歳の時の記憶が残っております。当時サラリーマンだった父親が幼稚園を始めるといふことで、自宅の前にあった栗畑（今の園庭ですが）を業者に伐採してもらい、これから造る幼稚園のために、整地し終わったその日の夕方、使用していた大型重機を回送トラックに載せている風景を自宅の縁側越しに見た記憶を今でも覚えております。まさに、現在私が勤めております中央幼稚園の始まりの日であり、その後続く、新学幼稚園、中央スイミングスクール、ジャパントレーニングセンター、中央保育園、つくば中央保育園の始まりの日でもあります。

これが私自身の最も古い記憶であり、今の仕事につながっていく縁日だったんだろうなと思っております。

次に私と運動とのつながりについてお話しします。

うちの近所には1学年上の人たちが多く住んでおりました。その方たちは、学校から帰ってくると、うちの園庭に集まり、日々いろいろな遊びをしていました。中でも柔らかいボールを使った野球は多く行われ、自然と野球のルールも覚えめました。地域には4年生から入れる少年野球チームがあり、一緒に遊んでいた人達はみんなそのチームに入っていました。そして、必然的に1年遅れで私も入りました。そしてそこに集まったチームメイトの多くがそのまま中学まで続くこととなります。

そして高校はバラバラとなりましたが、私は高校でも野球を続けました。ケガなどもありましたが、3年間続けることができました。そして大学へは部活としてはいけませんでした。サークル活動で野球を続けました。たまたま入ったチームが楽しみながらも本気で野球をするチームだったため、とても有意義な大学生活を送ることが出来ました。

大学3年のとき、そのサークルの仲間から12月に行われる「ホノルルマラソン」に行こうと誘われました。行ったことのないハワイに行けるチャンスと思い、ノリでOKをしてしまいました。まさに私がマラソンを始めるきっかけです。初めて訪れたハワイの雰囲気と外国人特有のノリの良さの中で行われるマラソン大会に魅了されて、翌年も参加してしまい、その後もマウイの大会にも参加するようになりました。

そしてかすみがうらマラソンをはじめ、国内の大会にも参加しておりました。そんなある日、東京の街中を走るマラソン大会が開催されることを知りました。ご存知「東京マラソン」です。金額は国内大会では破格の10,000円、そのため2007年に開催された第1回大会は参加者倍率約3倍という今では考えられない低い倍率でした。そこに私は応募し、当選して走ることができました。当時の東京都知事石原慎太郎さんは、この大会を通して「東京オリンピックを誘致しよう」とアピールをしていきました。まさか東京オリンピック構想の旗印となった第1回東京マラソンに参加した自分が、その後オリンピック聖火ランナーになるとは……ですね。

来年は、新型コロナの影響で延び延びになっておりました「かすみがうらマラソン」が開催されるとの事です。久しぶりに参加してみようと思っています。何かとつながっているかもしれないですね。

【おまけ】

実は私はオリンピックの聖地「国立競技場」とも縁があるようです。

大学時代、サークルのイベントの一環として12月に行われる大学ラグビーを毎年国立競技場で観戦しておりました。そんなこともあり、旧国立競技場がいよいよ解体されることとなったころ、内覧会が開催されていると知り、見に行ってきました。そこで、見かけたのか「さよなら国立競技場セレモニー」の案内チラシです。ダメもとで申し込んだら当選し、行ってきました。

その会場で来場者にプレゼントされたのが、新国立競技場の内覧会入場券「フューチャーズチケット」です。

そして同日夜に開催されましたオープニングイベント～HELLO OUR STADIUM～のイベントにも申し込みました。こちらも当選して、観覧することができました。

旧国立競技場から新国立競技場への移行に関わるすべてのイベントに参加することができました。つながるってすごいですね。

因みに私の聖火リレースポンサーさんはNTTなのですが、そのスローガンが「CONNECTING WITH HOPE ひとりひとりの、希望の光をつなぐ」なんです。

なんとな～くつながっているきがしますね。

私に今起きている事は、実は前からつながっていた事に気付かされることがあります。

土浦南ロータリークラブに入会したことで、何か新しいつながりが広がっていき、後々振り返った時、入会した日が縁日だったと思えるようになっていけばいいなと思っています。

ご清聴ありがとうございました。



本日は新会員卓話という事で貴重なお時間を頂きまして誠にありがとうございます。

簡単ではありますが、私の自己紹介と、仕事でもありますワインについてお話をさせていただきます。

普段このようなところからお話をさせて頂く機会がございませんのでとても緊張しております。

まず自己紹介をさせていただきます。

私は鈴木恵一と申します。1983年3月4日生まれで今年38歳になりました。

仕事のほうは土浦市田中1丁目で株式会社土浦鈴木屋という会社を経営しております。私の父でもある先代が3年半前に他界しまして、現在は私が代表取締役をさせていただいております。

会社の主な仕事内容としましては、酒類の卸、小売り販売、ワインの輸入を行っております。

もともとの鈴木屋は、お酒だけでなく御惣菜や駄菓子や雑誌なども売っていたりして、スーパーのようなお店でした。私も小さいころは、母と一緒に市場に仕入れをして、惣菜をつくって、パック詰めしたものに値札を付けたりしていました。

大きくなるにつれてお酒のお店が変わっていきました。父がワインにはまってワインの比率がどんどん増やしていきました。どうして、ワインの比率を増やしたかと言うと、30年以上前ですが父は自分でワインを輸入しようと考えました。当時のワインは皆さんが今飲んでいるようなワインではなく、サントリーさんやメルシャンさんのような大きな会社から仕入れて売るという普通の酒屋の形態でした。ある日、サントリーさんの営業の方が来ていて、フランスのブルゴーニュ地方のワインを持ってきて一緒に父と試飲したときに、とてもまずいワインだったそうです。なぜこんなまずいワインを作るのか？と父は思ったそうです。

その後、サントリーさんに誘われて、父がフランスに行くことになり、サントリーさんの扱っている蔵を廻りましてフランスのジュヴレーシャンベルタンという村の蔵に行きました蔵の御主人がいろいろなワインをテイスティングさせてくれたそうです。父は、以前サントリーさんが持ってきたワインとは雲泥の差で、ものすごくおいしくてとてもビックリしたそうです。どうして、日本に持ってくるとこんなに味が変わるのか？と父が考えた時に、輸入で日本に着いた段階で悪くなっていると気づき、当時は大手企業でもほぼドライコンテナで輸入してしまし冷蔵管理をしていないコンテナが主流でした。冷蔵管理ができるリーファーコンテナはわずか3%しかありませんでした。

ヨーロッパから日本に来るには、スエズ運河を通過してそのまま赤道付近の非常に暑いところを40日間かけて日本に到着します。その40日間でワインが劣化する事に父は気づき、その当時あまり他の方もやっていなかった自社輸入を始めることになりました。日本に届いてからも温度管理は必要でして、日本は夏が暑いところですので、しっかりと24時間エアコンをつけ

て温度管理を行ったところ評判になり、ワインの世界の雑誌や、著名人の方が来てくれたり、ワインで名が知れるようになった会社です。

世界で一番高いワインのロマネコンティは、フランスブルゴーニュにあるヴォーヌ・ロマネ村という最も有名な村で、そこにありますロマネコンティという畑があります。その畑で取れたブドウだけを使って作るワインがロマネコンティというワインです。ロマネコンティを所有しているドメヌ・ド・ラ・ロマネコンティという会社の単独所有している畑のワインになります。年間生産量は、畑の面積が1.8haしかありませんので、多くて6,000本くらい、少ない年ですと4,000本以下という非常に少ない生産量のワインになります。

ですので、世界中のワイン愛好家が狙っていますので、どんどんと値段も上がってきてまして、私が入社した15年前は、30～40万円出せば買えたと思いますが、今ですと正規では仕入れできないので、間を通過して仕入れるのですが200万円位はします、なので販売時には250万～300万くらいの値段になります。

このロマネコンティというワインは「世界で一番旅をするワイン」と言われてまして、あまりの価値の高さゆえに所有者がどんどんころころと変わっていくワインの一つです。

誰かしらが温度管理を怠ってしまうと、その時点でダメになってしまいますので、非常にリスクのあるワインです。非常に価値があるワインですので、みなさん投機目的で購入される方も多いです。私はまだ飲んだことがないのですが、よし町の木村さんが飲んだ時は、「ものすごく薄いワイン」と言っていました。いいワインを飲んだ後にそのワインより下のクラスのワインを飲むとあまり味がしないという印象が起こりますが、ロマネコンティはものすごく薄いワインですが、そのあとにどんなにいいワインを飲んでも「味がしない」という薄いワインですけれども上品さの極みというか、ものすごく詰まっているワインだと聞いております。当社にもロマネコンティはストックしております。何かあった時に高野さんに買ってもらって、私もお相伴にあずかりたいなと思っております。

ちょっとブドウのことについてお話させていただきます。

ワインに使うブドウというのは食用に使うブドウとは全く違い日本の巨峰とかでワインを作っても全くいいワインにはなりません。ヨーロッパの仕立て方法は垣根仕立てというやり方で、背の低い木を間隔を狭めて植えていきます。1本の木から10房～20房くらいになりますが、その中でも根っこに近い方のブドウは養分が行き届きますのでいいブドウになります。木を狭めて植えるのは、人間と一緒に植物もいいライバルをつくりお互い切磋琢磨していいブドウを作らせるという事です。ワインはしっかりと管理をすれば、ポテンシャルの高いワインは20年、30年は持ちますし、中には100年以上持つワインもあります。

ワインは醸造酒の中でも、バリエーション豊かでいろいろな顔を持つ素晴らしい飲み物です。是非、ワインのほうにご興味いただけましたら私のほうにお声がけいただければと思っております。

以上で私の新会員卓話とさせていただきます。ありがとうございました。

家庭集会 11/16(火) 於:うまい家

[職業奉仕・社会奉仕・青少年奉仕・国際奉仕・ロータリー財団・米山記念奨学]

